

2

2016年版 世界IT市場に関する予測を発表

- IDC Japan (以下、IDC) は、2016年および、その先数年間における世界IT市場の動向を特徴付ける技術や市場トレンド、企業の動きなどの予測をIDC FutureScapeレポートとして発表した。

2007年にIDCは、モビリティ、クラウド、ビッグデータ/アナリティクス、およびソーシャル技術の上に築かれた第3のプラットフォームが、将来のIT産業におけるイノベーションと成長の基盤であることを明らかにした。以来、第3のプラットフォーム技術の急速な進展は、第3のプラットフォーム基盤上でイノベーションとトランスフォーメーションが激増する「イノベーションステージ」へと移行している。こうした局面は今後3~5年にわたり加速し、企業は、デジタルトランスフォーメーション(DX)に巨大なスケールで取り組み、「DXエコノミー」の出現をもたらすとIDCでは予測している。

★DXエコノミーの台頭: 第3のプラットフォームが全産業で広範囲なデジタルトランスフォーメーション(DX)を牽引するイノベーションステージに移行する2016年に、「DXエコノミー」の台頭をIDCは予測している。

★DXビジネス戦略: 今後2年以内にGlobal 2000企業の3分の2のCEOが、成長・収益性戦略の中心にDXを据え、DXエコノミーにおけるリーダーシップ獲得を狙うDX

イニシアティブを立ち上げる。

★第3のプラットフォームIT: DXエコノミービジネスの実現に向けた投資は、今後24ヶ月以内に、企業のIT支出の半分以上を占め、2020年には60%に達する。

★クラウドコア: 2018年には、企業のITインフラおよびソフトウェア投資の半分以上がクラウドベースになり、2020年には60~70%に達する。

★イノベーションキャパシティ: DXイニシアティブを追求する企業では、ソフトウェア開発チームの規模が2018年には現在から倍増し、開発チームはDXイニシアティブに重点をおくようになる。

★データパイプライン: DXイニシアティブを追求する企業では、外部からのデータパイプライン数は2018年までに現在の3~5倍になり、データ市場へのデータ配信量は現在の100倍になる。

★インテリジェントエッジ: DXエコノミーの成長を支えるIoT分野で、2018年までにIoTデバイス数は現在の2倍以上の220億台に達し、20万種以上の新しいアプリケーションとソリューションの出現を促す。

★リアルタイムな知見: 認知ソフト

ウェアのプラットフォームへの支出は2016年に10億ドルを超える。2018年までに企業の開発者チームの50%以上が認知サービスアプリケーションを取り入れる。

★デジタルサプライネットワーク: 産業特化型クラウド数は現在の100余りから2018年までに500以上に増加する。DXイニシアティブを追求する企業の80%が2018年までに産業特化型クラウドの構築・提携を行う。

★顧客関係: DXエコノミーがもたらす価格破壊は顧客数の1,000~10,000倍化を企業に促し、2018年までにB2B企業の60%、B2C企業の80%がカスタマーエンゲージメントシステムを再構築する。

★サプライヤーの生存: DXエコノミーの進展により2020年までに、ITサプライヤーの30%が買収、合併、事業縮小などにより市場から消滅する。企業はITサプライヤーとの関係を抜本的に見直す必要に迫られる。

●お問い合わせ先●

IDC Japan 株式会社 セールス
TEL : 03-3556-4761
E-mail : jp-sales@idcjapan.co.jp
URL : http://www.idcjapan.co.jp